

15

群馬県立病院長山崎泰輔の管内巡回について

須長 泰一

伊勢崎市

明治9年に群馬県前橋町で設立された群馬県医学校は、明治14年3月に開催された県会において医学校に関する予算の全廃が決定された。新たに医学生徒養成費が提案され、その養成は東京大学医学部別課に託されることになり、県を主体にした医学教育の場は僅か5年間で廃止されることになった。その一方、県会における予算審議の過程で、病院は地域にとって必要不可欠な施設であることが改めて認識された結果、明治14年7月22日に医学校付属病院を引き継ぐ形で群馬県立病院が新設され、病院長には医学校長兼付属病院長を務めていた東京医学校の卒業生である山崎泰輔が就任したことが知られている。

この時期は地方社会において、近代的な医療体制の確立が急がれていた段階にあり、このような県による病院の設立は、地域における医療の中心となる組織の継承であるとともに、管内の地域全体に西洋医学を基礎にした医療の普及を推進する役割も期待されていたことを推測させる。実際、こうした意図を反映した取組みとして、県立病院が設立されて間もない時期である明治14年9月、山崎病院長によって管内地域への巡回が実施されていた事実を次の史料から把握することができる。

明治十四年九月 一、衛生上奨励并医術普及ノ為メ、衛生課員榎田六等属、病院長山崎泰輔ヲシテ偏ク県下ヲ巡廻セシム『群馬県衛生課第一次年報』

ここで報告された山崎病院長による管内巡回は、これまで日程や巡回地域が明らかでなく、実態は不明であったが、「山崎泰輔日記」には実施内容が詳細に記載されており、さらに明治14年と15年の2度実施されていたことも判明したので、その概要を紹介する。

第1次管内巡回は明治14年9月26日から12月19日までの3ヶ月間に、県内のほぼ全域を対象に全6期の巡回が実施され、診察患者総数は99人であった。第1期の巡回地域は高崎駅、渋川駅、伊香保村、中之条町、川原湯村、草津村、沢渡村、沼田町、月夜野町、追貝村、高平村で、診察患者数は20人であった。第2期は安中駅、原市村、下磯部村、松井田駅、板鼻駅について巡回が実施され、診察患者数は46人であった。第3期の巡回地域は太田町、木崎宿、大原本町、館林町、桐生新町、台之郷村、新川村で、診察患者数は13人であった。第4期は高崎駅、鬼石町、坂原村、藤岡町、吉井町、富岡町、下仁田町について巡回が実施され、診察患者数は10人であった。第5期の巡回地域は伊勢崎町、玉村宿(下新田村)、境町であり、診察患者数は10人であった。第6期は大間々町、花輪村に巡回が実施され、診察患者数は不明である。第2次管内巡回は明治15年3月1日から29日までの期間に、全2期の巡回が実施され、診察患者総数は498人であった。第1期の巡回地域は高崎駅、安中駅、原市村、松井田駅、三ノ倉村、権田村、川原湯村、長野原村、中之条町、沼田町、月夜野町、高平村、大原新町、追貝村、渋川駅で、診察患者数は337人であった。第2期の巡回は大胡町、大間々町、花輪村、桐生新町、丸山村、館林町、板倉村、松原村、川俣村、小泉村、太田町、木崎宿が実施され、診察患者数は161人であった。当初の計画では全3期の実施が予定されていたが、第2期の伊勢崎町、玉村宿(下新田村)、境町と第3期の藤岡町、鬼石町、万場村、下仁田町、富岡町、吉井町への巡回は実施されないまま、県当局により3月29日突然中止が決定された。現時点で中止の理由は判明していない。

『群馬県衛生課第一次年報』には、明治12年の管内医師数が記録されている。総数は491人で、その内漢方医377人、洋方医114人とあり、漢方医がほぼ8割を占めていたことが解る。こうした医療環境の中、東京医学校でドイツ人医学教師から最新の医療技術を学んだ山崎病院長により600人近い患者への診察が行われた管内巡回は、群馬県における西洋医学の普及に関して、先駆けとなる意義深い活動であったと考える。